

**大学発新産業創出プログラム 社会還元加速プログラム(SCORE)**  
**事後評価結果通知**

課題番号	STSC30009
研究開発課題名:	計算科学的手法を用いた合理的タンパク質設計技術によるサメ抗体の高機能化
研究代表者(所属・役職・氏名)	国立大学法人愛媛大学 プロテオサイエンスセンター 准教授 竹田浩之

**1. ビジネスモデル仮説検証の目的**

サメ抗体作製技術は他の抗体作製技術では得られない抗体の取得や、優れた物性を持つシングルドメイン抗体の創出など、顧客候補が持つ抗体に対する不満を解決できる可能性がある。しかし、顧客間で抗体に対する要求点が明確に把握できていなかった。本プロジェクトでは、「特定の顧客候補者層によって抗体に関して抱える訴求点が異なっているのではないか」という仮説を立てて、検証を行なった。具体的には、製薬企業および診断薬メーカーなどの顧客候補企業を訪問し、フカボディ抗体のコンセプトや、我々が開発したフカボディの性能、また計算科学による機能強化技術などを提示し、その反応を観察することで、個々の顧客層に特異的に、また共通に求められる、性能、コスト、発展性あるいはその他のアピールポイントの傾向を明らかにすることを試みた。

**2. ビジネスモデル仮説検証の概要**

本プロジェクトの目標は、顧客候補者の層ごとに抱える抗体の訴求点の異なりの有無を認識することである。そのために、我々はいくつかの製薬企業や診断薬企業への顧客インタビューを実施した。各製薬企業からは経営者に近い立場の管理職の方を始め、オープンイノベーション担当、研究者・技術者など、様々な立場の方が顧客インタビューに応じて頂き、それぞれの立場における意見、コメント等を幅広くサンプリングすることができた。その結果、業界や役職、立場によって共通点および相違点が明確になった。これにより、顧客層ごとに抱えるユーザーペインや優先度、抗体へ求める性能などに関する差異構造を知る手がかりが得られた。以上のことから、想定した目標は概ね達成できたと考えられる。

**3. 総合所見**

顧客候補となる国内外の製薬会社へのヒアリングや展示会への出展など積極的な活動を行い、ビジネスモデル仮説検証と人的ネットワーク構築を工夫して事業化活動を進めた点を評価する。引き続き、事業化に向けた活動の継続を期待する。

以上